

2021年8月31日

ESG投資における取組みについて ～環境負荷低減に資する船舶投資ファンドへの出資～

株式会社秋田銀行（頭取 新谷 明弘）は、アンカー・シップ・パートナーズ株式会社（代表取締役 篠田 哲郎）が組成した船舶投資ファンド「アンカー・ディスカバリー合同会社」に対する出資契約を締結しましたので、お知らせいたします。

ESG投資の視点を取り入れた本ファンドは、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱するポジティブインパクト金融原則^{（注）}に基づき、環境や社会に前向きな影響を与える船舶分野への投資を計画しております。

また、三井住友信託銀行株式会社からインパクト投資の評価認定を受け、さらに格付機関である株式会社日本格付研究所（JCR）から第三者意見を取得し、今後も定期的なモニタリングを受ける予定です。

本ファンドの主要な投資ターゲットは、環境負荷の低い液化天然ガス（LNG）を主燃料とするLNG運搬船などとしているほか、将来的にはCO₂を排出しない水素やアンモニアを燃料とする船舶への投資も検討しており、脱炭素社会の実現に貢献する取組みであると考えております。

当行は「秋田銀行グループ サステナビリティ経営方針」において、「地球環境への貢献」を重要課題の1つとして掲げております。今後も事業活動を通じて、脱炭素社会の実現に貢献し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

（注）ポジティブインパクト金融原則とは、SDGsの達成に向け、金融機関が経済・社会・環境に対して積極的な投融資を行うための原則

（以 上）



SDGsとは、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のことです。2030年までに解決すべき世界的優先課題17目標と目標を達成するための169のターゲットが示されています。